

Ⅲ 学生の実態等に関すること

学生は多様化しているといわれるが、直接学生に接する認定者は、現在の学生の気質や考え方、実態等についてどのように考えているのであろうか。本項目は、副学長等のアンケート調査と同じ内容であり、スチューデントコンサルタント認定者と比較できるよう同結果に合わせて掲載しているので参照されたい。

以下に、特徴的な内容を述べる。

以下の項目に関して、副学長等とスチューデントコンサルタントの調査結果にはかなり差がみられ、学生の実態に関する認識、評価の違いが浮かび出てくる。「問15の授業への取組等」のように、ほとんどが事務系職員であるスチューデントコンサルタントには教室内の状況は分からない面が多く、「授業への取組について」や「最近の学生の授業態度等」に関する認定者の見方は、どのような観点にたって回答したのか判断に迷うところであるが、日常見聞している状況を踏まえて回答を行ったものと考えている。多くの事務系職員の認識に通ずるものであると考えられる。

一方、「問14の今の学生のタイプ等」や「問16の友人関係等」、及び「問17の最近の学生のライフスタイルや処世観等」についても、副学長等とスチューデントコンサルタントでは、その結果にかなりの差異がみられる。学生支援、学生指導を担当する関係者には考慮していただきたい問題といえるのではないだろうか。

問14 今の学生のタイプ等

(1) 学生の勉学等への取組や姿勢 (18頁の問7(1)の表に掲載)

「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせると、学生は「素直で真面目である」(95.5%)、「勉学に一生懸命取り組んでいる」(73.9%)と高い評価を示している。一方、「前向きで積極的である」については「そう思わない」が56.5%、「目的をもって学生生活に取り組んでいる」についても「そう思わない」が50.0%、「何に取り組んでよいかわからず漫然と過ごしている」については「とてもそう思う」と「そう思う」が56.5%になっている。

(2) 課外活動等の状況 (19～20頁の問7(2)の表に掲載)

「アルバイトに精を出している」と「課外活動に励んでいる」は5割以上。「ボランティア活動に積極的に参加している」は2割となっている。

(3) 学生の読書傾向等 (21頁の問7(3)の表に掲載)

「図書館をよく利用している学生が多い」と回答した認定者は45.7%であるが、「新聞を読んでいる学生が多い」は4.3%、「読書をしている学生が多い」は17.4%である。

最近の学生は本や新聞を読まないといわれているが、その傾向はこの調査でも明らかになっている。

問15 授業への取組等

(1) 授業への取組について (23～24頁の問8(1)の表に掲載)

授業への取組について、事務系職員のスチューデントコンサルタント認定者は、教室内の状況がわからない点もあると考えられるが、調査結果は、次のとおりである。

「出席率が良い」(76.1%)、「真面目に授業を聴いている」(65.2%)と回答した者が多いが、「予習、復習をよくやっている」とは思わないが50.0%、「課題図書等をよく調べている」と思わないが47.8%になっている。

また、「将来の進路を考え、目的をもって取り組んでいる」と思わないは39.1%で、「何を学習してよいのか目的がはっきりしていない」と思う認定者は41.3%である。「卒業さえできればよいと考えている学生が多い」も32.6%になっている。

(2) 最近の学生の授業態度等 (24～25頁の問8(2)の表に掲載)

授業を担当しないスチューデントコンサルタント認定者は、授業中の学生の動向はわからないことも多いと思うが、「授業中もスマートフォンやメールに夢中になっている」と思っている者は34.8%、「授業中に眠っている学生が多い」と思っている者は30.4%、また、「授業中に友人との私語が多い」と思っている者は26.0%いる。

問16 友人関係等 (26～27頁の問9の表に掲載)

認定者からみれば、47.8%が学生は「積極的に友人(仲間)をつくり、交友関係を広めている」と考えており、「特定の友人とのみ交流し、他の友人等とのコミュニケーションをとらない」と思うは58.7%になっている。「異なる年齢世代や異集団と話せない、話さない」学生も60.8%いると答えている。

「お互いに批判することがなく、馴れ合い的である」(65.2%)、「自分の意見を言わない」(54.3%)、「アイマイ語が多く、はっきりと自己主張しない、できない」(60.9%)と、いわゆる内向きな学生像が浮かび出ている。

問17 最近の学生のライフスタイルや処世観等

(1) 学生自身の将来展望 (29頁の問10(1)の表に掲載)

認定者は、学生のライフスタイルや処世観等をどのようなみているのであろうか。

最も多い回答は、「自分の趣味やゆとり、自由に過ごせる時間を持つことが一番大切だ」と考えている学生が多いが47.8%となっている。「目的に向かって努力し、社会的に成功したい」は28.3%、「経済的に豊になり恵まれることが一番大事だ」は20.1%であり、「日本以外のいろんな世界で活躍したい」と考えている学生は少ないと回答した認定者は47.8%になっている。

(2) 最近の学生の処世観や行動傾向 (30～32頁の問10(2)の表に掲載)

学生の処世観や行動傾向について、認定者の47.8%は「できるだけ楽をして結果を得たい」と考えている学生が多いと答えている。「面倒なことには関わりたいくない」学生は54.3%、「失敗や恥をかくこと、挫折することをいつも心配している」学生は52.2%であり、「何事もマニュアルを欲しがり、自分で考え行動する習慣ができていない」(50.0%)学生や、「指示待ちで指導者やリーダーがいないと始まらない」(43.5%)学生が多いと回答している。

このような傾向は、過保護世代の実態を表すものといえようか。

「入学の動機がはっきりしない」については、「そういう学生が多い」が34.8%、「そういう学生は少ない」が39.1%と評価はわかれている。

入学の動機について、副学長等の調査結果では、動機がはっきりしない学生は少ないとの回答が61.1%(大学)になっており、ここでも認定者と大きな差が出ている。